

社会福祉学会 News letter

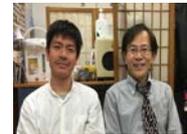
第18号 2016年11月6日発行 長崎国際大学社会福祉学会(代表・坂本 雅俊)

長崎県佐世保市ハウステンボス町2825-7 長崎国際大学 坂本 雅俊 研究室 TEL0956-20-5519



学科はいま現在、どうなってるの、

変わるものと変わらないもの、そして…



“夕空晴れて秋風吹き”。秋の訪れで思うことは、晩秋になるにつれて、ものごとが成熟するのではという思いです。年齢(よわい)を重ねた者が、より成熟した高みに上り続ける、そんなイメージは、私たちのなかにもとから備わっているのではないのでしょうか。今年はリオオリンピック、パラリンピックの年でした。丁度、地球の裏側にあたる地での実況中継で、深夜まで観戦して寝不足の方もいるようでした。また、先日、ノーベル賞文学賞をボブ・ディランさんに贈られることが発表されました。受賞を受けられるのか注目が集まっていますが、我々の人生における成熟とは、長い年月を経て、多くの経験と取捨選択の果てに、晩年になって少しずつ訪れるものです、だから、それは競技スポーツのように、身体能力の最高点・頂点とは別物なのだとも思います。

さて、社会福祉の学び手である我々にとって、社会に送り出した卒業生からの「傾聴や受容の本当の意味が、30歳を超えて少しわかった気がする」との言葉は、実感を伴っていて、これを聴くと本当に何かしらうれしいものです。18歳くらいで、若くして(大学でいうとこれまでに定年なされた、S先生、H先生、T先生、Y先生はじめ、W先生、A先生等々から教授を受けた・[想像してみてください])学んだことが、時間を経て、社会体験を通して、やっと少しずつ、わかり始めたことがあるという「経験」は、我々教員も同じ体験をしてきているからです。そんな、人生の長い時間軸のなかで、お互いにそうした体験を伝え合うことができる人は、同窓生と教師をおいて他にないでしょう。

社会では、一人で仕事や社会生活を完結できることはほとんどないので、どうしても、協調性や他者との信頼関係を強く結べる力が必要です。いま、社会福祉学科は、全学ポリシーの改編に伴って、学科のポリシーの作成、カリキュラムマップや科目のナンバリングの作成をはじめ、入学定員、資格の再編、福祉のイメージアップ作戦などに「学科の教師全員で強く協力して」取り組んでいます。また、さらに、平戸市との連携協定、子ども食堂、スクールソーシャルワーカー養成、県別保護者会といった、上乘せ横出しの業務にも分担して取り組んでいることから、年々我々の体重は減っているような気がします(微笑)。社会福祉学科での学生生活でみると、変わるものと変わらないもの、それぞれの視点により違いは多少あるかもしれません。ときどき、気が向いたら、社会福祉学会のホームページや同窓会のフェイスブックを覗いてみてください。社会福祉学科が成熟期を迎えるのは、まだまだ先のこともかもしれませんが、もし、変わったものや変わらないものがみつかったら、そのことを肴にして、みなさんが大学に来たときに語りあいませんか。

2016(平成28)年10月20日(木)212研究室より

お知らせ

第13回 長崎国際大学社会福祉学会総会&第14回研究発表会

◎日時：2016年12月10日(土) 13時～17時 ◎会場：1101教室

◎内容：① パネルディスカッション：「地域福祉における連携」

・コーディネーター：池田茂則

・パネラー：久保田直樹、藤島こずえ、相知清隆、湊 浩二郎

② 自由研究など発表

③ 第13回 学内学会定例総会



研究室レポート：細野研究室 便り

こんにちは。4月から社会福祉学科に着任いたしました、細野広美と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私の出身地は、熊本県の植木町（今はもう熊本市になりましたが）というところ。スイカの名産地として有名な田舎町で、ハウスや田んぼ、竹やぶに囲まれて育ちました。小さい頃から「人」と関わるのが大好きで、新たな出会いや刺激にワクワクするタイプです。見かけた際にはお声掛け頂けると喜びます。

さて、私の専門は「臨床心理学」という分野です。臨床心理学とは、心理学の知識や技法をベースに、何かしらの障がいや不適応行動のある方への治療、援助、予防や、人の心理・行動面のより健全な向上を図ることを目指す、心理学の一専門分野とされています。福祉同様、臨床実践と研究が密接にかかわる分野ですので、大学院と並行して医療機関や療育機関等で臨床心理士として勤務し、様々な障害や問題を抱えた方々と出会い、彼・彼女達からたくさんのお話を聞いてもらいながら、臨床と研究を行ってきました。実は、以前に長崎国際大学にも学生相談室のカウンセラーとして勤務した時期があり、当時から、素直でかわいい学

生達と、学生への教育に熱心で親身な教職員の皆様の姿勢を見ておりましたので、この度のご縁を大変うれしく思っています。

大学という場所で学生達と過ごしていると、自身の大学生活を思い出します。私の場合は、大学に入学してすぐに「土曜学級」という自閉症児の余暇活動のボランティアに出会い、自閉症の子ども達のかかわらしさや保護者の方々の素敵さにすっかり魅了され、大学院を卒業するまでの10年近くの間、毎週活動に通ってました。今思えば、私が臨床心理士を志したのも、大学1年生の時の自閉症の子ども達との出会いがあってこそですから、これから大学で担当する学生達にも、大学の4年間で、いろいろな活動に参加して、素敵な出会いやきっかけをたくさん持ってもらえたらと思う次第です。

大学では、精神保健福祉士の養成にかかわる科目と全学教育の心理学等の科目を担当する予定です。佐世保でのネットワークはこれから作っていくところになりますので、皆様との出会いを楽しみに、様々な面でお力をかりながら、成長して行ければと思っております。これから、どうぞよろしくお願いたします。

(細野 広美)

助手室レポート：田淵真由子助手室 便り

社会福祉学科の助手研究室に、教務課からの出向という形で今年の5月から勤務致しております、社会福祉学科6期生の田淵真由子です。卒業後は社会福祉関係の仕事には就かず、畑違いの仕事を経験してまいりました。

現在は実習や国家試験に関する業務などを中心に行っております。大学内外の方々とお話しするたび、「教職員の皆さんはこんな気持ちだったのか」、「自分自身が学生の時と比較すると現役の学生の方が〇〇だな」、「実習先の担当者の方々はこんなことを考えてくださっていたのか」など考え

させられることもあり、恥ずかしくなります。卒業して約7年間大学と離れていただけに、在学中との物事の変化に驚く毎日です。教職員や大学院生、学部生の皆さんに助けられてなんとか日々の業務を乗り越えられており、「感謝、感謝」の日々です。

卒業生の皆さん、こんな私のいる助手研究室ですが、お近くにお越しの際はぜひ助手研究室にお立ち寄りいただければと思っております。

(田淵真由子)



【懇親会のご案内】

こんにちは、卒業生のみなさま。来る12月10日(土)に学内学会が開催されますが、その後、本学食堂にて懇親会(会費¥2,500程度)を開催致します。

少しずつ変化を遂げているキャンパスに来られませんか?みなさまのお越しを社会福祉学科教職員一同お待ちしております!

また、不定期更新ですが、フェイスブックも始めております。既にご覧頂いている卒業生もおられると存じますが、まだご覧頂いていない卒業生のみなさま、「長崎国際大学 社会福祉学科」で検索ください!

☆☆☆ご参加される方は11月26日(土)迄に韓に(Tel: 0956-20-5507)ご連絡ください。



「日々技術の研鑽を行って」

4期生 平山 祐二



社会福祉学科 4期生の平山祐二（旧姓田浜）と申します。

私は2016年4月に大阪からUターンして、地元の佐世保で鍼灸院「みずたま」を立ち上げました。それまでは鍼灸師の免許取得と技術習得のために、8年間大阪におりました。

私が鍼灸師を志したのは、大学で社会福祉の勉強をする中で、入所する人のケアをする仕事ではなく、皆様にいつまでも自宅で元気に過ごしてもらえる仕事がしたいと思ったからです。

私はこの想いを実現できる仕事を探す中でひょんなことから鍼灸というものに出会い、これこそ自分の想いを遂げることができるものと確信し、鍼灸師になりました。

そして今、病院の医療とはまた違う角度である、東洋医学・整体・骨格からの目線で施術を行い、1度歩

けなくなった人をもう1度歩けるように、どこの治療院で匙を投げられた人でも希望を持ってもらえるように日々技術の研鑽を行っております。

人間の体は偉大です。いくつになっても諦める必要はありません。正しい原因に対し、正しいアプローチをすると、必ず応えてくれます。

私の夢は、在学中大変お世話になった坂本教授が立ち上げ、現在柳詰助教が中心になって活動をしておられる「県北の集い」の皆様と力を合わせ、長崎県佐世保市から日本の介護の現状を変えることです。福祉の大学を出た鍼灸師として、僕にしか見えていない世界を広げていき、将来みんながいつまでも笑って自宅で過ごせる世界を創っていきます。

そのすべてのきっかけを作ってもらった、母校・長崎国際大学に心より感謝いたします。これからもよろしく申し上げます。



「充実した毎日を送られています」

11期生 青沼 佳奈恵

皆さんこんにちは。卒業生の青沼佳奈恵です。

私は大学生の頃より、生まれ育った佐世保の地で福祉に携わりたいという気持ちを深めていました。その希望がかない、精神保健福祉士として医療法人慶友会西海病院に入職し今年で3年目となりました。

入職後からの一年半は精神科一般病棟に配属され、様々な精神疾患の患者さんの支援にあたってきました。疾患は多様ですが、本人やご家族のニーズに合わせた個別支援を行うよう心がけていました。

しかしスムーズにいくケースばかりではなく、もどかしさを覚えることもありました。本人やご家族との相談はもちろんのこと、他専門職や他機関との連携を深め対応を行うことでより良い支援に繋げることができ、その対応等が自身の貴重な経験となりました。

本年7月に配置転換があり、現在は外来リハビリテーションのひとつでもある精神科外来デイケアでの支

援に従事しています。メンバーさんたちは昼間デイケアに通所され、活動を通して他メンバーと過ごしながら体力作りや人との付き合い方を学び、また規則正しい充実した生活を送ることで再発防止とより良い社会参加の訓練をおこなわれています。日々の関わりを通し信頼関係を築くことで、不安や不調のサインに気付いたり、早期の支援に繋げることができるため、今は特にメンバーさんたちとの関わりを大切にしています。

ちなみに同年卒業生の城本詩織さんと内野健太さんも病棟担当ワーカーとして充実した毎日を送られています。

まだまだ当院の中でもデイケアの中でも新米ですが、患者さんに寄り添った支援を行うということを忘れずにこれからも働きたいと思います。

「一歩ずつ」

11期生 山口 真喜子



私は大学を卒業してから、福岡県宗像市にあります。社会福祉法人さつき会はまゆうワークセンター宗像（就労 B）にて支援員として勤務しています。入社して日が浅い頃は先輩支援員や同僚と自分を比べたり、利用者支援がうまくいかないことに対して「この仕事

を選んで良かったのか」「自分には合っていないのではないか」など沢山悩むこともありましたが、同じような悩みを抱える大学時代の友人、アドバイスをくれる先生方、いつも元気をくれる利用者、多くの方のお陰で乗り切ることができたと思います。

施設では、作業として一般の農家に施設外就労に出向くなど初めての農作業(水菜・玉ねぎ・ほうれん草)も行い、今まで未知の世界だった“農業”も知ることができました。

今年で3年目を迎え、作業部門責任者となり忙しい毎日、今までより責任も増え「これで良いのか」「先輩にうまく伝えきれているのか」など1・2年目とは違

った悩みもありますが、周囲の力も借りつつやっけていくことができています。平日退社後はスポーツジムで汗を流し、休日は習い事や友人・職場仲間と会うなどストレス発散もしながら充実した日々を送ることができています。これからも様々なことをたくさん経験し、学んで今後活かしていきたいです。

海外研修
韓国 福祉研修

素晴らしい研修になりました

9月11日(日)から9月13日(火)まで、長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科では「海外社会福祉研修」の一環で、韓国に行つてまいりました。この海外社会福祉研修は2年に1回行われており、今回は学生が14名、教員6名の20名のグループでした。

9月11日は、大学を出発し、チャーターバスで福岡空港、ソウル・仁川空港を経由してパジュ市に入りました。パジュ市はソウル市の近郊に位置しているため最近ではソウル市のベッドタウンとしても発展している町です。そこでは展望台へ上り、景色を一望しました。もちろん、福祉研修の一環として、エレベーターにあるような物理的なバリアフリー

を見学することや、外国人旅行者に対する「言語バリアフリー」を知ることができました。

9月12日は、社会福祉法人ジュネザユクエン、パジュ市老人福祉館の2つの施設を見学することができました。午前中にジュネザユクエンを訪問し、障がい者の生活支援を6つの部署で見学しました。また、午後からはパジュ市の老人福祉館を訪問し、同施設における説明を聞き、施設を見学しました。パジュ市の高齢者の日中の居場所をつくることや、語学研修、ダンス、囲碁といった生涯学習についても積極的であり、利用者の生き生きとした顔を見ることができました。

9月13日は、ソウル市内のバリア

フリーを見学しました。ソウルタワーをはじめとする各種の観光施設での物理的バリアを解消するための取り組みを知ったり、外国人旅行者の言語の問題を解決するための図(ピクトグラム)の見学をしたりして、韓国における取り組みが判りました。市内見学後、仁川空港、福岡空港を経由して大学に戻り解散となりました。

3日間は、期間としては短かったですが、施設見学、バリアフリー見学といったことで内容も充実していました。参加した学生、教員は韓国の福祉事情を体験、見学したことで勉強になりましたし、学生同士の交流を深めることができた素晴らしい研修になりました。

国家試験に向けて

今年度は、1月28日に精神保健福祉士、29日に社会福祉士の国家試験が行われます。現在、国家試験を目指して頑張っておられる卒業生の方には、心よりご健闘をお祈り申し上げます。

グラフにみられるとおり、本学科の合格率は、徐々にではありますが向上しつつあります。この流れを絶やさないう、今年も合格支援に向けたさまざまな取り組みや見守りを行ってはおりますが、肝心の4年生たちのエンジンのかかり具合が心配な状況は、例年と変わりません。しかし、ここへきて、連日各先生の研究室や図書館で勉強にいそむ学生たちの姿を多くみかけるようになりました。

国家試験は、学生たちにとって、学生生活最後の試練です。資格取得自体もちろん大切ですが、各自が目標に向かって努力を積み重ね、この試練を乗り越えていくというプロセス自体にも大きな意味があると思います。この経験を通じて、学生たちがさらに大きく成長してくれることを願いながら、私たち教員も最後まで精いっぱい応援していきたいと思っています。卒業生のみなさまも、後輩たちへの応援、どうぞよろしくをお願いします。

社会福祉学科国家試験合格支援委員会
委員長 武藤 大司

